



第4会場●4F 大研修室

■司 会／植村 健治 大分県教育庁社会教育課 生涯学習推進班 指導主事兼主幹
林田 匡 熊本県熊本市立本荘小学校 教諭

分科会の進め方

13:30~13:35

1 嘉川子育て支援連絡組織“みらい”が目指す 「子育てにやさしいまちづくり」

13:35~14:05

山村 正子(山口県山口市) 嘉川子育て支援連絡組織“みらい” 代表

“みらい”的構成は主として、民生委員児童委員、母子保健推進員、子育てサークル嘉川幼稚園学級、嘉川っ子サポートーズ等である。“みらい”が山口市に陳情した子ども館「しゅっぽっぽ」は市の「地域型つどいの広場」助成事業の第1号として平成17年に開館した。嘉川地区の子育て支援は乳児から高齢者まで世代間の交流を深め、子育てにやさしいまちづくりを進めることである。今日、手がけている事業は嘉川子ども館「しゅっぽっぽ」の管理運営、中学生年生対象「命の学習・あかちゃんふれあい体験」、子育て支援の公開講座、情報誌の発行、多世代交流の輪づくり、中・高生・若者ボランティアサークル「きずな」支援など多岐に渡っている。事業内容に応じて、行政、学校・保育園、地区内の諸団体、高齢者施設などと「協働」することに力点を置いている。定例の“みらい”運営委員会、サポートーズ会議、行事毎の実行委員会を通して「協働」の情報と目的の共有、連絡・確認を行なっている。

2 「三隅学」の創造と「地域力」の醸成 ～「三隅」の歴史を学び現代につなぐ～

14:10~14:40

野尻かおり(島根県浜田市) 浜田市立三隅公民館 主事

三隅の歴史を語り継ごうという「三隅氏復活プロジェクト」は平成22年、島根県「実証！「地域力」醸成プログラム」に採択された。三隅公民館では地域の共通歴史遺産を通して、地域の連帯を育むべく「三隅学」の創造に取組んだ。地域の歴史を学ぶことは地域の一体感を醸成するに留まらず、歴史を生かした教育活動、地域活動、イベントの創造というように「地区」を越えて連鎖的に発展展開している。具体的には、三隅氏の居城「高城」の整備、「高城」と「出城」を結ぶのろしりレーの開催、「高城」周辺の景観整備と現地学習会の実施、中学校の歴史副読本「三隅兼連と南北朝」の作成、「三隅歴史セミナー」の開催などを生みだしてきた。実施形態も進化し、三隅公民館から出発した事業発想は、「実証！「地域力」醸成プログラム」事業、学校地域支援本部事業、町内6公民館の連携した取り組みなどと融合している。

ティータイム

14:40~15:05

3 学校と地域をつなぐ企業発の総合的食育学習 ～「大豆100粒運動 大豆できずく食育の町佐賀」の継承と展開～

15:05~15:35

池田 龍二(佐賀県佐賀市) ショッピングセンター アルタ開成店 企画室 販売促進企画室長

6年前からアルタは、取引しているメーカー企業の協力を得て単発的な食育プログラムを展開して来た。当初は月1回の頻度で、「カルビー」からは正しいおやつの食べ方を、「明治乳業」からはカルシウムや朝ご飯の重要性を、「日本ハム」からはソーセージとハムの歴史を学んだ。その過程で「食料自給率」や「食の安全」などの観点の重要性に気付き、辰巳芳子氏¹が提唱する「大豆100粒運動」に注目して、アルタが実践的に継承した。本事業は、関係企業の協力を得て大豆を通して日本人の食文化を学ぶ総合的学習の企画である。主たる対象は小学生（現在小学校9校）である。1年を通して大豆の生産の過程を学び、加工や栄養の課題を学び、最後は、販売のプロセスを体験的に学ぶ。近隣の農家、「丸美屋」、「大塚製薬」などの協力を得、アルタは特設売り場を設定して販売体験の機会を提供し、売り上げの一部は図書カードで学校に還元している。

4 ゆにばの杜塾 ～大学が育む「中継ぎ世代」を中心とした社会参画と地域活性化～

15:40~16:10

保坂恵美子(福岡県久留米市) NPO法人ゆにば市民ネットワーク 理事長

当ネットワークは社会人20名、学生35名で構成。学生を地域の「中継ぎ世代」と位置付け、彼らに、御井校区における子どもの学習支援、子育て中の母親、一人暮らしの高齢者、不登校の子どもなどの居場所づくりと世代間交流などの企画に参画させることを通して、役割意識や地域アイデンティティを育てようとしている。具体的な手法として、校区の「ガリバーマップ」の作成、校区民に呼び掛けた花いっぱい運動の展開、学習支援活動、地域住民を対象とした娯楽・健康・交流などを目的とした各種社会教育的プログラムを実施している。現在、空き施設となっている旧コミセンの活用が可能になったばかりか、居場所機能を果たすことでの福祉コミュニティの中核を成す活動に成長している。